

群馬県の現状

全国的に登下校中の児童の列に車が突っ込み、死傷者が出る事故が発生したことを受けて、平成24年度に全公立学校327校、支援学校14校の通学路の危険箇所を対象に県と警察、学校で連携し緊急合同点検を実施した結果、要対策箇所が1,284箇所発見された。このうち対策者未定(H24年度点検時)箇所230箇所及び対策に長期間を要する9箇所を除いた、1,045箇所の対策を実施して、通学する児童の安全を守るため早急な対策が必要であると考えます。

県民の声

通学児童が安全で安心して通行できる整備を推進する必要がある。

事故が起きそうな箇所を早急に対応して事故を未然に防いでほしい。

課題

歩行者が安全で安心して通行できる歩行空間の整備を推進する必要があります。

目的

通学児童が安全で安心して通行するための道路整備並びに周辺環境の整備・道路の安全性を向上させる関連事業を実施することにより、子供達が安全で安心して通学できる地域づくりに寄与します。

事業の指標

指標 1 通学路緊急合同点検で発見された要対策箇所

Σ(対策完了した箇所数) (単位:箇所)

成果と達成度報告

通学路の安全性が向上した箇所が**1,272箇所増えました!**

指標1: 通学路緊急合同点検で発見された要対策箇所

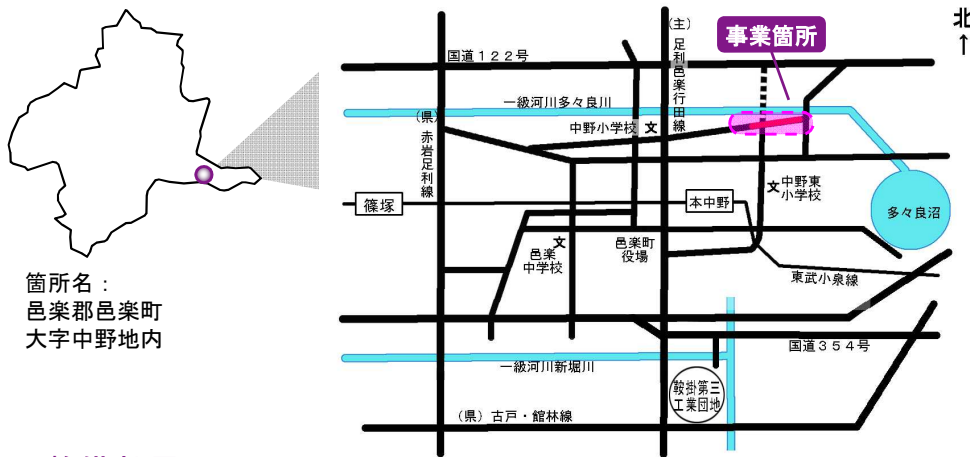
	目標	実績	増減
当初値(H25当初)			
中間値(H27末)	627箇所	1,258箇所	1,258箇所の安全対策が完了
目標値(H29末)	1,045箇所	1,272箇所	1,272箇所の安全対策が完了



整備効果事例

事例① 町道幹線18号線 歩道整備

位置図



箇所名：
邑楽郡邑楽町
大字中野地内

整備効果



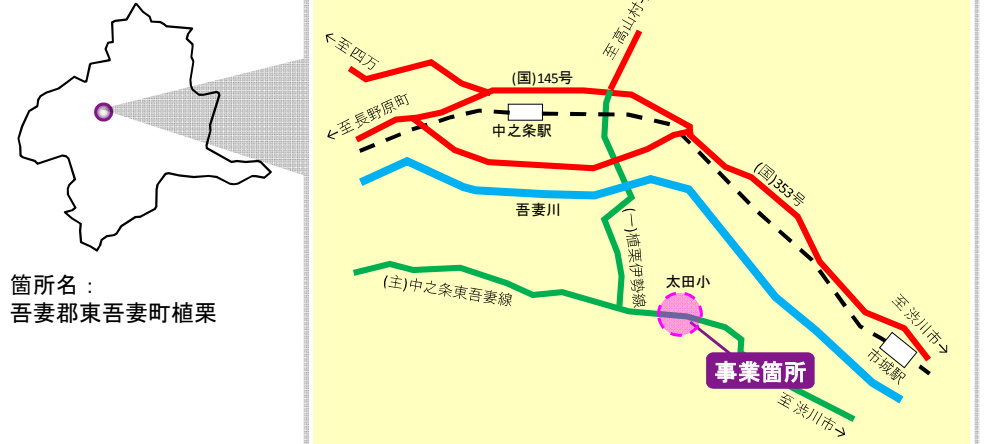
歩道が整備されておらず危険



歩行者の通行が安全になった

事例② 主要地方道 渋川東吾妻線 歩道整備

位置図



箇所名：
吾妻郡東吾妻町植栗

整備効果



歩道が整備されておらず危険



歩行者の通行が安全になった